

第2回越前おおの型食・農業・農村ビジョン推進委員会及び大野市食育推進会議
議事概要

令和8年2月18日（水）午後1時30分～3時30分
結とぴあ305号室

出席者 推進委員8名（欠席 3名）
事務局 3名

○委員長あいさつ

- ・米の価格について、3ヶ月連続して緩い下落をしているが、高止まりの状況である。今後の価格動向はわかりかねるが、生産コストに沿った価格に落ち着いていくのではないかと考えている。
- ・この度の大雪により被害を受けた農業者も多かった。JAとして被災された方には関係機関と協力をしながら支援を行っていく。各機関で柔軟な対応が求められる。

○議事

1 アンケートの結果について

事務局より資料に基づいて説明。

【質疑】

委員 担い手向けと一般農家向けのアンケートの内容は同じか。

事務局 内容は対象によって異なる。一般農家向けは農家組合長と各農家組合に所属している農業者2名に対して依頼した。

委員 質問ではないが、アンケート結果をみて、妥当な結果だと思える。

2 計画骨子（案）について

事務局より資料に基づいて説明。

【質疑】

委員 センサスの中の農業経営体数について、経営規模別の割合がわかるようなグラフにした方が見やすい。また、集落営農を1と数える形になっているため、構成員数を踏まえた数がわかればそちらも把握すべき。経営面積の推移も必要。

事務局 計画の素案を作成する際、分かりやすい資料となるよう工夫する。

委員 地域計画については記載しなくてよいか。

事務局 骨子のうち、「農村振興」の箇所に追記したい。

委員 経営体数が減っていることについて、市議会の9月議会一般質問でも触れられていたと思うが、どのような内容だったか。

事務局 経営体数が減っている中で、中小規模の農業者に対する市独自の支援について質問された。ビジョンの策定の中で検討していくと答弁している。

委員 何点か意見を述べさせていただく。

①「農村振興」について、集落の高齢化が進む中、集落外から関係人口となるような人を呼び込むことは考えられないか。地域貢献をしたいという方は一定程度いらっしゃる。集落出身で市街地に家を建てている子世代が草刈りや水路の清掃など集落活動に参加するきっかけづくりのため、集落内に市民農園のようなものをつくり、野菜作りのため、定期的に集落に戻る仕組みがあるとよいのでは。このような取組に対する補助もあるとよい。

②「農村振興」について、サトイモの定植や収穫などの作業をイベントの開催により労働を賄えないか。

③「食育活動の推進」について、伝統料理を次世代に伝える活動として指導者や材料の支援を行ってはどうか。子ども食堂を集落内で開催し、集落内で伝統料理を教えられるような環境を作れるとよいのでは。サトイモを食べる文化を残すことでサトイモを作る土壌を残すことにもつながる。

④「農業振興」について、農業法人が行う従業員の育成の取り組みを支援してはどうか。従業員に独立就農させることができるよう経営力を身につけられる支援を行うことで担い手づくりにつながるのでは。県が運営する「田んぼ道場」の活用もできる。

⑤「農業振興」について、就農モデルを作成し、市独自で就農相談会を開催して新規就農者を募ってはどうか。市外からの移住者に対しては移住支援の内容も併せて説明できるとよい。

事務局 いただいたご意見を参考に素案を作成していきたい。

委員 ⑤について、道の駅産直の会でも協力できると思う。道の駅への出品者募集と合わせて検討したい。

3 その他

特になし。

○閉会：副委員長あいさつ

- ・アンケートの結果から農業者、後継者の問題が読み取れる。8年度水稻の作付けは例年並みと聞いているが、まだまだ価格は安定しないのではないか。高温障害がある中で、一般農家もいちほまれを作れるようになるとよい。
- ・サトイモの作業も機械化している部分もあるが、高齢だと難しい作業もある。担い手に預けられるのが理想だが担い手も手一杯の状況。
- ・消費者グループでは放課後児童クラブで伝承料理の紹介活動も行っている。食生活改善推進委員の取組も行っているが、お隣の人に習うという時代でもなくなってきているので、伝えていける環境が必要と感じている。